様式 1

東北大学大学院情報科学研究科

(1)	シンポジウム開催支援経費 ~~学際的研究プロジェクト支援経費~~	実績報告書
タイトル	第7回テラフロップワークショップ	
(2) 主催者	情報科学研究科・情報シナジー機構・シュットガルト大学高性能計算センター	
期日	2007年11月21日～11月22日（2日間）	
会場	情報科学研究科棟2階大講義室	
出席者数（講師・パネリスト等を除く）	120名	
講師・パネリスト等の氏名・勤務先等	姫野龍太郎（理化学研究所・開発グループディレクター），大淵済(海洋研究開発機構・プログラムディレクター), 大林茂(東北大学・教授), 坂根栄作(大阪大学・助教), 石黒静児(核融合科学研究所・教授), 山田進(日本原子力研究開発機構・研究員), 羽間収(日本原子力研究開発機構・研究員), Markus Decker(シュットガルト大学・研究員), 高原浩志(NEC・技術者), 生田将史(NEC・技術者), Harald Klimach (シュットガルト大学・研究員), Danny Sternkopf (NEC Europe・技術者), 藤井孝藏(宇宙航空研究開発機構・教授), Rainer Keller(シュットガルト大学・研究員), Uwe Kuester(シュットガルト大学・研究員), Michael Resch (シュットガルト大学・教授), 小林広明（東北大学・教授）	
(3) 目的	本ワークショップは、国際的に活躍する計算科学の研究者、およびスーパーコンピュータ設計者を招いて、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換を行うとともに、今後のスーパーコンピュータ設計のあり方を議論することを目的とし、毎年開催されている。	
(4) 内容	本ワークショップは16の招待講演から構成され、計算科学分野および計算機科学分野で国際的に活躍する研究者･技術者によるスーパーコンピュータに関する最新の研究成果の発表と討論が行われた。	
(5) 情報科学研究科にとっての意義・貢献度	2日間のワークショップでは、160名の参加者（学内参加者79名（情報科学48名　その他31名)、学外82名）があり、活発な討論が行われ、情報科学研究科から高性能計算に関する国際的な情報発信ができたと考えている。また、多くの情報科学研究科の学生の参加があり、学生に対しても当該分野の最新の研究成果に触れる良い機会を与えた。	

注（1）.「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」より、該当する項目を記載してください。
（2）当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。
（3）当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。
（4）実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。
（5）大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。